

国強硬 知事追い詰める

図書館で沖縄タイムスを見ていたら、8月15日付「沖縄の行方 翁長知事急逝1」で、目取真俊さんが標題について書いていた。沖縄の行方が気になるので前半を紹介する。

翁長雄志知事の訃報に接し、その早すぎる死が残念でならない。おそらく意識が残る最後の時まで、「埋め立て承認の撤回」を自らの言葉で口にしたかったであろう。その無念さを思う。同時に、闘病とリハビリ生活を支えてきた家族の皆さんの悲しみを思う。

翁長知事にとっての最大の政治課題は、辺野古新基地建設阻止であった。そのために日本政府・安倍晋三政権と正面から対峙し、その強権的な振る舞いに苦難を強いられた。翁長知事が工事の問題点を指摘し、中断するように行政指導を繰り返しても、政府は無視して工事を続けた。

機動隊や海上保安官を前面に出し、ゲート前や海上で抗議する市民を暴力的に排除する。沖縄戦を体験したお年寄りが機動隊に手足をつかまれ、排除される姿に、翁長知事も怒りを覚えただろう。

安倍首相の政治手法は幼稚で劣悪だ。自らに従順な「オトモダチ」はあからさまに優遇し、抵抗する者には徹底して圧力を加える。面談に応じず、反対意見は無視し、予算を削減して嫌がらせを行う。沖縄には憲法も民主主義も適用されないかのような態度を続けてきた。その攻撃を正面から受けてきたのが翁長知事だった。

政府・自民党にとって翁長知事は「裏切り者」であり、それだけに激しい攻撃が加えられた。翁長知事を支える「オール沖縄」の保守・中間層に対する切り崩しは熾烈を極めた。那覇市議会の新風会の解体や安慶田光男副知事の辞任、仲里利信衆議院議員の落選に加えて、支援企業の「オール沖縄」脱退もあった。

翁長知事の直接の死因は病である。しかし、そこに至るまでの心労の深さを思えば、翁長知事をここまで追い詰めていったのは、安倍政権の強硬姿勢である。知事選や国政選挙で示された沖縄の民意と、地方自治を尊重する姿勢が安倍首相にあったら、翁長知事もここまで追い詰められはしなかった。



(2018年9月24日)